

社会とのコミュニケーション

お客様、社員、お取引先、株主・投資家、国際社会・地域社会など、多様なステークホルダーの皆様とのコミュニケーションに努めています。

有識者との対話「環境ダイアログ」

富士通グループは、社会の変化やニーズを反映した環境経営を推進していくために、幅広いステークホルダーの皆様と対話する機会を多く持ち、確かな信頼関係を築いていくことが重要であると考えています。

その一環として「環境ダイアログ」を行っています。NPO、大学、メディアなど様々な分野から有識者をお招きし「環境」を軸に多様なテーマで対話を重ねています。

継続したから見えてきたこと

環境ダイアログは、社会と企業との双方向コミュニケーションによる確かな関係づくりを求めてスタートしました。2011年度に1回目を開催し、2016年1月に計25回を数え、延べ80名もの有識者の方々との対話を進めてきました。

対話を続けることで、富士通グループの取り組みや情報発信に有効な気づきを数多く得ることができました。例えば、「ウェブサイトやプレス発表など、企業側からの発信だけでは伝えきれない考え方や背景、動機や経緯といった情報こそが富士通を理解いただくための重要ポイントである」、「社内で一般的だと考えているICTに関する事項は一般的ではなく、実は社会に求められていることであった」など、小さなことから大きなことまで新たな発見につながっています。

2015年度のテーマ

【第1回】富士通の環境マテリアリティ

【第2回】環境配慮の視点からサプライチェーンを考える

【第3回】自然資本経営

【第4回】SDGs(持続可能な開発目標)に企業はどう取り組むか

【第5回】COP21の国際的な議論を受けて
ーグローバルなリスクと機会ー



2016年1月開催の第25回環境ダイアログの様子

共創と協働から、次世代へ

環境ダイアログをきっかけとして、新たな取り組みに発展した事例も生まれています。

一例として、WWF(世界自然保護基金)の方との対話を通じて実現したのが、全国の小・中学校で行っている環境教育プログラムの1つ「地球一個分で暮らすために」です。このプログラムは、資源と人の暮らしとの関わりを学ぶものですが、「富士通らしさを活かしたい」と議論を重ねた結果、タブレットPCを活用した授業方法を採用。これにより、地球資源の大切さとICTの両方を学ぶことができるプログラムとなりました。

環境教育の講師は富士通グループ社員が務め、2015年度は全国の小・中学校を中心に約200団体、約12,800名に向けて実施しました。



タブレットPCを使った環境教育の様子

1つの対話から企業と社会がつながり、共創から協働、それが次世代へとつながります。社会とともに未来を創っていくためにも、より広く深い対話の継続を目指していきます。

Top Message	環境本部長インタビュー	特集1「第8期富士通グループ環境行動計画」の焦点	特集2 Digital Innovation	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
環境経営	グリーン調達	環境リスク最小化に向けた取り組み	社員への環境教育・啓発活動	社会とのコミュニケーション			

社会とのコミュニケーション

ファシリテーターの声

今年度の環境ダイアログも様々なテーマで開催しました。着実に社会との対話を継続していることは本当に素晴らしいと思います。昨年度までに比べて、テーマ設定もより高度になってきました。基本的なテーマは押さえつつ、これまでにない切り口で社会や富士通の今後にとって重要な分野にも踏み込み、有識者とのネットワークも多分野に広がりました。

今年度も、部門を超えてダイアログに参加する社員が増えてきたことを心強く思います。環境本部以外の社員が、積極的に外部の視点に触れることは、今日明日の何かにつながるだけでなく、長期的に企業を内側から変えていく教育効果をもたらします。実際に様々なビジネスチャンスや新しい発想などにもつながっていると聞いて、社会との対話を重ねてきた結果、社内から確実に変化の種が育ちつつあることをうれしく思います。

4年目となる環境ダイアログは25回を迎えました。英語でのダイアログ実施にもトライし、さらなる広がりや深まりが期待されます。「真のグローバルな環境経営」とは何かを考え続ける



東京都市大学環境学部 教授
幸せ経済社会研究所 所長
枝廣 淳子 氏

場として、また、社会とともに未来を創っていくため、ますます重要な役割を担っていくであろう環境ダイアログの今後に大いに期待しています。

持続可能な社会やグリーンICTの普及拡大に向けた外部団体との連携

富士通グループは、国内外の外部団体に積極的に参加することで、持続可能な社会の実現に向けたグリーンICTの普及や活用の推進に取り組んでいます。

主な参画組織

WBCSD(持続可能な発展のための世界経済人会議) : 交通・運輸領域の評価指標の検討や各種ソリューションの具現化を推進
グローバル・eサステナビリティ・イニシアティブ (GeSI) : ICTがサステナビリティにもたらす可能性について包括的な分析を行ったレポート「SMARTer2030」に貢献
ITU-Tの「ICTと気候変動グループ(SG5 WP3)」: グリーンICTの普及拡大
ISO TC286 SC1 (Smart Urban Infrastructure Metrics): スマートコミュニティにおけるインフラ評価方法構築やICT役割明確化を推進
「GHGプロトコル製品ライフサイクルの算定及び報告基準(ICTセクターガイダンス)」の運営委員会: ICTライフサイクルの環境影響を評価
データセンターの評価指標に関する日米欧の国際協調会議: データセンターの環境配慮の促進
Uptime Institute Network: データセンターのパフォーマンスや効率性の向上に向けた調査や会議への参加
JEITAグリーンIT委員会: 製品・サービスの貢献量評価手法の確立に貢献

TOPICS GeSIとのパネルディスカッションに参加し、ICTの可能性について討議

2015年12月、東京で開催されたエコプロダクツ2015において、GeSI(グローバル・eサステナビリティ・イニシアティブ)の議長Luis Neves氏が訪日し、富士通および他2名のパネリストとともに、ICTの可能性についてパネルディスカッションを行いました。富士通からは、ICTソリューションの提供を通じた気候変動の緩和と適応への貢献について、事例を交えて紹介しました。



富士通社員(右)が登壇した、パネルディスカッションの様子

展示会・イベントを通じたコミュニケーション

富士通グループは国内外の展示会やイベントを通じて、お客様や地域住民の皆様に対し、地球環境課題の解決に向けた富士通グループの取り組みに関する情報を紹介しています。

2015年度に出展した主な展示会・イベント

- ITU Green Standard Week
バハマ・ナッソー / 2015年12月
- エコプロダクツ2015
東京 / 2015年12月
- 川崎国際環境技術展
神奈川 / 2016年2月



エコプロダクツ2015
富士通グループ展示ブース